

## Ⅱ 肉用牛部門

### 1. 本県肉用牛の動向

- (1) 飼養戸数は、全国的に減少で推移しており、本県の場合も平成4年の370戸をピークに小規模経営を中心に減少してきた。平成20年2月1日現在の肉用牛飼養状況は、農林統計（農水省）によると、飼養戸数は97戸で前年に比べ6戸増加した。飼養頭数は平成6年の7,590頭をピークに減少傾向で推移している。平成19年には4,770頭と前年に比べ160頭の増加がみられ、平成20年も更に260頭増加した。1戸当たりの飼養頭数は、平成5年まで20頭前後で推移していたが、以降徐々に増加している。平成20年は51.8頭で、前年の52.4頭を下回った。（表-1）
- (2) 肉用牛飼養構成は肉用種の子取用雌牛の頭数は平成6年の1,010頭をピークにその後は減少で推移している。肉用種肥育牛は、平成6年の1,890頭をピークにその後減少で推移している。交雑種は、平成3年以降大幅な増加が続いていたが、平成12年の4,550頭をピークに国内でBSEが発生した平成13年から減少傾向である。平成20年度においては、肉用種の子取用雌牛320頭で、前年比133.3%、肥育牛は1,560頭で、前年比111.4%であった。交雑種は2,810頭で、前年比108.5%、乳用種は250頭で、前年比89.3%であった。平成19年から肉用種肥育牛及び交雑種について微増した。（表-1）
- (3) 肉用子牛（素畜）の取引価格は、農畜産業振興機構によれば、平成20年度平均で、黒毛和種雄が416千円、前年比79.1%、黒毛和種雌が350千円、前年比78.3%、交雑種雄が128千円、前年比64.0%、乳用種雄が87千円で、前年比87.9%であった。  
交雑種初生牛は77千円で前年比81.1%、乳用種初生牛は28千円で前年比84.8%であった。（表-2）  
神奈川県家畜市場においては交雑種初生牛・乳用種初生牛込みで56千円、前年比74.7%であった。全品種とも全国的にもと牛価格が下がっている。
- (4) 枝肉の規格別卸売価格は、農水省食肉統計、東京食肉市場調査では、黒毛和種去勢A5規格は2,318円/kg、前年比94.1%であった。去勢和牛のうち高品質のA5規格は、BSEの発生した13年度に大幅に低下した。その後、平成18年度までは回復傾向で推移し、平成12年度対比102.9%でBSE発生前の水準まで回復してきたが、平成20年度においては平成12年度対比96.5%となっている。A4規格では10年度以降低下傾向で推移し、13年度に大幅に低下した後には上昇傾向で、平成18年度には2,190円/kgでBSE発生前の平成12年度対比117.4%であったが、平成20年度には前年比89.5%と落ち込んだ。中級規格A3についても同様で、13年度に大幅に低下した後には上昇傾向で、平成18年度には1,967円/kgで平成12年度対比131.1%とBSE発生前の水準を大幅に上回ったが、平成20年度には前年比86.2%になっている。交雑種去勢B3規格は1,217円

／kg、前年比91.0%、乳用種去勢 B2 規格は780円／kg、前年比104.3%であった。黒毛和種去勢、交雑種去勢については前年比を下回り、乳用種については、去勢、めすともに前年を上回っている。(表-3)

表-1 肉用牛飼養の推移

(単位：戸・頭)

年	戸数	総頭数	乳用種	交雑種	肉用種	
					繁殖牛	肥育牛
H 3	360	7,220	3,070	1,990	880	1,280
H 4	370	7,090	2,560	2,110	920	1,500
H 5	340	7,250	1,720	2,880	950	1,700
H 6	340	7,590	1,450	3,240	1,010	1,890
H 8	270	7,110	1,340	2,690	800	1,890
H 9	230	7,010	1,110	3,380	700	1,820
H10	230	6,820	660	3,760	680	1,720
H11	220	7,030	520	4,210	570	1,730
H12	200	7,090	340	4,550	480	1,720
H13	200	6,520	250	4,150	470	1,650
H14	190	6,400	320	4,000	400	1,680
H15	160	5,650	270	3,310	380	1,690
H16	136	6,230	200	3,640	420	1,890
H17	117	5,360	280	3,150	360	1,460
H18	108	4,610	270	2,160	280	1,380
H19	91	4,770	280	2,590	240	1,400
H20	97	5,030	250	2,810	320	1,560

「農林統計」

(毎年2月1日現在)

## 2. 診断農家成績の分析概要

平成20年度畜産経営技術高度化促進事業において肉用牛部門は、経営診断に基づく改善指導5戸、経営管理技術指導2戸、生産技術指導2戸、フォローアップ指導3戸の計12戸に対して支援指導を実施した。

### (1) 診断農家の飼養規模（表－4）

#### ア. 経営形態

3事例とも肥育部門に繁殖和牛の一貫生産を取り入れている。

肥育部門においては、3事例とも黒毛和種の肥育専門経営であった。

#### イ. 飼養規模

飼養規模については、労働員数1人当たりでは、肥育牛50頭以上が1事例、50頭未満が2事例であった。

### (2) 肥育成績

黒毛和種去勢肥育牛の個体成績について比較してみる。（表－5）

#### ア. 肥育もと牛の導入

飼養開始日齢は、276日から286日、平均280.1日で前年度平均の283.0日を若干下回っている。

飼養開始体重は、最大が315kg、最小が296kgで平均303.9kgと前年度平均314.6kgを下回った。

素牛導入価格は、640千円から592千円で、平均614千円で、前年度平均の600千円を上回った。

#### イ. 出荷状況

出荷日齢は最大948日から最小901日、平均925.5日で、前年度平均の928.2日を若干下回った。

飼養日数は最大665日から最小615日、平均645.9日で、前年度平均の645.2日とほぼ横ばいであった。

出荷体重は最大850kgから最小819kg、平均831.1kgで、前年度平均820.0kgを上回っている。

枝肉重量も同様に最大566kgから最小545kg、平均552kgで、前年度平均の541kgを上回っている。

1日1頭当たり増体重（DG）は最大0.849kg、最小0.794kg、平均0.8kgで、前年度平均0.783kgを上回った。

販売価格は出荷牛1頭当たり最大1,350千円から最小1,101千円、平均1,245千円で、前年度平均1,335千円を下回っている。

枝肉単価については最大2,439円/kgから最小1,947円/kg、平均2,258円/kgで、前年度平均の2,465円/kgを下回っている。

### (3) 経営成果（表-7）

3事例の生産費用と収益について比較してみる。

#### ア. 費用

家族労働費を除いた総費用の各項目の割合は素畜費が43.4%、購入飼料費が32.8%、償却費が2.1%、その他一次生産費が8.8%、販売一般管理費及び営業外費用が13.0%で、素畜費と購入飼料費を合わせると76.2%と総費用の大部分を占めており、前年度の72.1%を大幅に上回った。特に購入飼料費の占める割合が前年28.0%から4.8ポイント増加し、大幅に高くなっている。（図2）

肥育牛1頭当りの素畜費は340千円から210千円まで差がみられた。平均は265千円で前年の298千円を下回っている。

購入飼料費については最小が193千円、最大が200千円、平均197千円で前年の196千円を上回った。

その他の一次生産費を合わせた当期生産費用の合計では、最小が483千円、最大が595千円と112千円の差がみられた。平均は528千円で前年の612千円を下回った。

#### イ. 収益

肥育牛1頭当たりの肥育牛販売収入は622千円から686千円で平均は650千円で前年の706千円を下回った。

売上高の合計は最小622千円から700千円、平均660千円で、前年の794千円を大幅に下回った。

#### ウ. 所得

肥育牛1頭当たりの所得は40,231円から137,740円と差がみられた。平均は86,752円で、前年の94,637円を下回った。

所得率は、平均13.14%で、前年の11.91%を上回った。

### (4) 生産性・収益性分析（黒毛和種若齢肥育）

黒毛和種去勢肥育牛販売価格から素牛価格を差し引いた増加額について、今まで分析してきた1号から3号の3経営に、素牛価格と出荷成績まで把握できた4号から11号までの8経営を加えて検討する。（表-8）

4等級以上の格付率は94.3%から25.0%と大幅な格差がみられ、平均は77.6%で前年の79.4%を下回っている。

枝肉重量は、392.0kgから566.0kgで平均512.0kgであった。前年度511.0kgを若干上回った。年度ごとの平均値の推移をみると年々大型化が進んでいることがわかる。

枝肉単価は、1,536円/kgから2,439円/kgまで差がみられ、平均2,081円/kgであった。1号から3号経営の平均は、2,258円/kgで、前年の2,465円/kgを下回っている。

出荷日齢は845.1日から972.8日で、平均は922.3日であった。

素牛価格は451千円から640千円で、平均は588千円で前年度の586千円とほぼ横ばいであった。

飼料費は経営数値のまとまった1号から3号までの数値であるが、310千円から404千円で、平均は352千円と前年度283千円を大きく上回っている。

販売価格は639千円から1,350千円で、格差がみられ平均は1,087千円と前年度1,194千円を下回った。

販売価格から素牛価格を差引いた1頭当り増加額は140千円から710千円で平均498千円で前年の607千円を大きく下回った。

肥育牛1頭当り増加額を飼養日数で除した1日1頭当り増加額は217円から1,155円と幅があり、平均785円で前年度平均951円を大きく下回った。

肥育牛1頭当り増加額から飼料費を差引いた肥育差益は飼料費を把握できた1号から3号経営までの数値であるが、104千円から400千円と幅があり、平均278千円で前年平均453千円を大きく下回った。

肥育牛1頭当り肥育差益を飼養日数で除した1日1頭当り肥育差益についても157円から651円と幅があり、平均436円で前年度平均703円を大きく下回っている。

素牛価格の増加と飼料費の増加と、販売価格の減少から増加額、肥育差益ともに前年度を下回っている。

平成13年度から上昇し続けた増加額と肥育差益だが、素畜費と飼料費の高騰の影響から平成18年度から減少傾向に入り平成20年下期の世界的経済不況によってそれに拍車がかかっている。

### 3. 指導の方向と対策

以上が平成20年度の経営分析結果である。

肥育もと牛の価格が、全国平均では若干安くなってきているが、本県の肥育経営スタイルでは、優良なシステムを導入し少数精鋭で経営を維持していかなければならないため、あいかわらず高い肥育もと牛を導入せざるを得ない状況が続いている。海上運賃も原油高・中国への船舶事情などから高騰が続き、これら様々な要因が重なって日本着の飼料の価格高騰が続いている。生産費の約7割を占めるもと牛価格と飼料価格の高騰のダブルパンチに加えて秋口以降からは牛肉消費の冷え込みによる牛枝肉価格の低迷が続きトリプルパンチの厳しい状況に追い込まれている。

#### (1) 収益性の向上

高い肥育もと牛、飼料価格の高騰、世界的不況の影響による枝肉価格の低迷という中で収益性向上のための対策を早急にとらなければならない。

費用の低減としては事例にもみられるが繁殖一貫生産を取り入れることによる素畜費

の低減が考えられる。しかし繁殖和牛の飼養管理の技術面や繁殖部門が軌道に乗るまでの資金の回収等難しい面もある。酪農家と連携してETや体外受精卵移植の子牛を導入する方法も考えられる。一貫生産にもいえることだが、この場合、子牛の哺育期・育成期の管理技術が課題となる。また、地域内での子牛流通体制を確立するためには行政・関係機関の協力が不可欠である。

購入飼料費の低減については、全国的にエコフィードについて注目されはじめたが、本県においては食品製造副産物の利用技術は既に定着している。肉質及び増体を目指しながらトウフ粕、ビール粕を配合飼料と混合した独自の飼料給与技術をつちかってきたが、今後、配合飼料価格上昇に対して更に研究を進め食品製造副産物の利用を推進していかなければならない。農家個々での原材料の収集が困難になってくることも予測されることから、行政・関係機関の協力が必要となってくるであろう。

販売収入の増加による収益性向上だが、枝肉重量を増やして販売価格を増加させることが考えられる。年々出荷体重が増加してきていることは先に述べたが、最近の食肉市場では和牛去勢でも枝肉重量500kg以上があたりまえになっている。600kg以上だと大きすぎて卸売業者に嫌われるが、交雑種においては枝肉重量をいかに確保するかが重要な課題となる。黒毛和種の去勢では520kgから540kg、雌でも450kgを目指したい。

また、黒毛和種の場合、適正な価格で高品質、枝肉重量のする肥育素牛を導入し肥育コストの節減を図ることである。生産コストを低減するには、肥育期間の短縮も重要な要素の一つであるが、肉質とのバランスを考慮しながら一日当りの増体重を向上させ、肉量・肉質をより短期間で作る技術が必要である。

## (2) 販売対策

今回の経営分析結果にみられるように順調に所得を伸ばしている経営も存在している。これらは高品質牛肉生産に努力し実行してきた経営である。消費者は「安全」で「安心」できる食料を求めている。家畜個体識別システムをはじめ牛トレーサビリティシステム等、生産者、行政、畜産業界一丸となって努力して「安全」については確保している。次のステップはいかに消費者に「安心」してもらうかである。消費者は生産者の顔が見える食品を求め、地産地消のニーズが以前に増して強くなっている。これは大消費地をかかえる本県にとってチャンスでもある。規模拡大によるスケールメリットを追求できない本県においては、地元の「安全・安心」に注目した販売戦略も今後の生き残り対策の一つである。欲を言えば、もう一つレベルアップして少数精鋭で高付加価値生産を行い、「安全・安心」に「美味しい」という付加価値をプラスした銘柄牛ブランドを目指したい。

#### 4. 経営診断分析図表

表－2 肉用子牛価格

(単位：千円)

年度	黒毛和種		交雑種	ホルスタイン	初生牛		
	雌	雄	雄	雄	乳用種	交雑種	神奈川※
H5	276	363	116	92	54	67	51
H10	326	411	186	72	18	69	50
H11	332	417	159	59	24	64	48
H12	343	423	208	87	47	96	77
H13	301	360	181	68	38	88	67
H14	344	411	220	68	53	113	86
H15	375	447	241	51	42	113	85
H16	417	494	259	66	40	113	95
H17	447	522	285	98	37	133	107
H18	466	544	291	116	41	150	110
H19	447	526	200	99	33	95	75
H20	350	416	128	87	28	77	56
H21	324	392	248	85	30	112	

「農畜産業振興機構調査」 ※神奈川は「神奈川県家畜市場」調べ（乳用種・交雑種込み）

表－3 牛肉卸売価格

(単位：円/kg)

区分 年度	去勢和牛 「A-5」		去勢和牛 「A-4」		去勢和牛 「A-3」	
	価 格	前年比 (%)	価 格	前年比 (%)	価 格	前年比 (%)
H5	2,618	99.0	1,946	96.1	1,511	97.6
H10	2,439	99.7	1,946	98.8	1,617	97.5
H11	2,425	99.4	1,883	96.8	1,518	93.9
H12	2,402	99.1	1,865	99.0	1,500	98.8
H13	2,182	90.8	1,600	85.8	1,235	82.3
H14	2,192	100.5	1,771	110.7	1,523	123.3
H15	2,346	107.0	1,963	110.8	1,733	113.8
H16	2,370	101.0	2,086	106.3	1,917	110.6
H17	2,451	103.4	2,166	103.8	1,981	103.3
H18	2,478	101.1	2,190	101.1	1,967	99.3
H19	2,464	99.4	2,131	97.3	1,836	93.3
H20	2,318	94.1	1,908	89.5	1,584	86.3

区分 年度	交雑種去勢牛 「B-3」		乳用種去勢牛 「B-2」		乳用種めす牛 「C-1」	
	価 格	前年比 (%)	価 格	前年比 (%)	価 格	前年比 (%)
H5	1,221	98.9	751	93.5	224	68.7
H10	1,280	92.1	589	76.6	196	63.2
H11	1,199	93.7	602	102.2	207	105.6
H12	1,236	103.1	781	129.7	318	153.6
H13	753	60.9	274	35.1	272	85.5
H14	1,115	148.1	528	192.7	213	78.3
H15	1,260	113.0	628	118.9	314	147.4
H16	1,419	112.6	805	128.2	407	129.6
H17	1,508	106.3	846	105.1	379	93.1
H18	1,439	95.4	860	101.7	363	95.8
H19	1,336	92.8	748	87.0	422	116.3
H20	1,217	91.1	780	104.3	431	102.1

農水省「食肉流通統計」・東京食肉市場（株）

表－4 診断農家の飼養規模（労働員数1人当り）

項 目		1 号	2 号	3 号	
飼養頭数	肥育牛	黒毛和種	77.2	42.2	41.8
		交雑種	0.0	0.0	0.0
		乳用種	0.0	0.0	0.0
		計	77.2	42.2	41.8
	繁殖和牛	1.0	5.0	4.5	
	子牛育成	1.0	2.0	2.1	
販売頭数	肥育牛	黒毛和種	41.5	20.0	24.0
		交雑種	0.0	0.0	0.0
		乳用種	0.0	0.0	0.0
		計	41.5	20.0	24.0
	肥育もと牛	0.0	0.0	0.0	

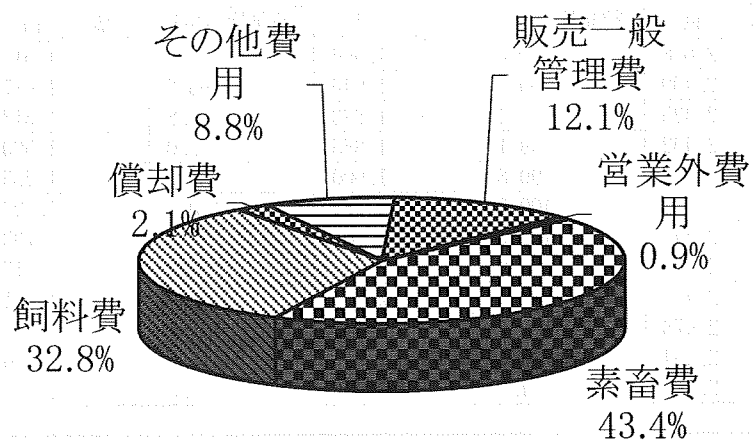


図1 生産費構成割合（3事例平均）



表一5 肥育牛の出荷成績

項目	1号	2号	3号	最大	最小	平均	19年度平均	17年度平均	15年度平均	13年度平均
	肥育開始(導入時)	日	286.0	283.0	286.0	276.0	280.1	283.0	282.3	290.8
肥育終了(出荷時)	kg	303.0	315.0	315.0	296.0	303.9	314.6	298.6	298.4	284.8
飼養(肥育)日数	日	925.0	901.0	948.0	901.0	925.5	928.2	947.0	924.8	918.6
飼養(肥育)回転率	kg	819.0	837.0	850.0	819.0	831.1	820.0	771.3	753.3	725.3
飼養期間増体重	kg	650	615	665	615	645.9	645.2	664.8	633.8	637
DG(全期間)	kg	0.56	0.59	0.55	0.55	0.6	0.57	0.55	0.58	0.58
もと牛価格	円	516.0	522.0	554.0	516.0	527.2	505.3	472.7	454.8	440.5
枝肉重量	円	0.794	0.849	0.833	0.794	0.8	0.783	0.712	0.718	0.695
販売価格	円	614.384	640.502	592.481	592.481	614.671	600.763	492.284	434.541	418.052
A4以上率	円	2,028	2,033	2,002	2,002	2,022	1,909	1,670	1,454	1,486
対仕向事故率	kg	545	554	566	545	552	541	509	492	484
平均増加額	円	1,271,743	1,350,642	1,101,537	1,101,537	1,245,636	1,335,262	1,297,045	1,035,543	832,699
出荷時評価額	円	1,553	1,614	1,296	1,296	1,500	1,626	1,677	1,373	1,146
平均肥育差益	円	2,334	2,439	1,947	1,947	2,258	2,465	2,542	2,102	1,718
	%	84.3	83.8	85.7	83.8	84.5	80.2	79.7		
	%	2.4	0.0	0.0	0.0	1.2	0.6	4.3	1.7	4.4
	円	657,359	710,140	509,056	509,056	630,965	734,499	804,761	601,001	414,647
	円	1,011	1,155	765	765	980	1,138	1,218	948	659
	円	958,449	950,576	997,227	950,576	966,705	881,976	762,569	694,530	637,062
	円	313,294	400,066	104,310	104,310	278,931	453,286	534,476	341,013	195,637
	円	482	651	157	157	436	703	811	538	313

表一 6 肉用牛診断農家の収益性 (肥育牛 1頭当たり)

項 目	1 号	2 号	3 号	最 大	最 小	平 均	19年度平均	17年度平均	15年度平均	13年度平均
売上高										
肥育牛販売収入	686,826	643,210	622,209	686,826	622,209	650,748	706,220	627,170	504,667	326,353
育成牛販売収入	0	0	0	0	0	0	57,085	47,577	19,808	4,333
堆肥販売収入	13,268	15,501	0	15,501	0	9,590	31,302	13,680	13,745	9,527
計	700,094	658,711	622,209	700,094	622,209	660,338	794,607	688,427	538,220	340,214
種付料	389	2,976	1,437	2,976	389	1,601	3,203	1,406	355	1,927
素畜費	340,201	210,474	245,678	340,201	210,474	265,451	298,449	269,973	187,659	115,434
購入飼料費	193,206	200,356	197,975	200,356	193,206	197,179	196,872	165,159	157,297	141,385
敷料費	0	0	14,371	14,371	0	4,790	7,808	9,228	4,466	5,556
雇用労働費	23,068	949	7,262	23,068	949	10,426	8,844	6,939	4,455	3,394
診療・医薬品費	9,552	13,527	5,710	13,527	5,710	9,596	10,490	10,306	7,534	6,425
水道光熱費	2,735	6,354	3,640	6,354	2,735	4,243	12,122	5,607	6,106	4,782
燃料費	2,735	6,354	3,640	6,354	2,735	4,243	13,234	8,093	5,211	4,835
建物構築物	5,385	6,281	1,690	6,281	1,690	4,452	20,593	8,657	7,575	9,688
減価償却	3,263	14,750	2,118	14,750	2,118	6,711	22,953	13,964	5,593	4,671
器具車両	0	919	3,846	3,846	0	1,588	1,174	671	959	2,496
繁殖牛	8,648	21,950	7,654	21,950	7,654	12,751	44,720	23,293	14,127	16,855
小計	12,073	19,436	16,584	19,436	12,073	16,031	13,630	7,914	9,824	7,622
修繕費	0	0	0	0	0	0	87	1,835	2,494	1,054
賃料料金	2,793	1,082	1,801	2,793	1,082	1,892	2,988	3,697	6,043	7,925
その他費用	595,399	483,460	505,754	595,399	483,460	528,205	612,447	513,448	405,572	317,194
当期生産費用計	748,487	822,505	815,183	822,505	748,487	795,392	780,350	610,200	486,559	407,928
期中振替額	0	0	0	0	0	0	0	2,193	0	0
期末飼養牛評価額	753,502	858,683	815,183	858,683	753,502	809,123	754,355	649,215	509,798	428,184
売上原価	590,384	447,281	505,754	590,384	447,281	514,473	638,442	472,240	382,333	296,938
副産物評価額	13,268	15,501	0	15,501	0	9,590	31,302	13,680	13,745	9,527
生産原価	577,117	431,780	505,754	577,117	431,780	504,884	607,140	458,560	368,588	287,411
売上総利益	109,710	211,430	116,455	211,430	109,710	145,865	156,165	216,187	155,887	43,275
販売経費	50,048	39,874	23,563	50,048	23,563	37,828	42,088	39,016	35,456	14,498
販売一般管理費計	73,097	89,831	55,751	89,831	55,751	72,893	65,882	71,071	64,495	44,383
営業利益	36,613	121,599	60,704	121,599	36,613	72,972	90,283	145,116	91,391	△ 1,108
奨励金・補てん金	10,662	19,736	26,797	26,797	10,662	19,065	22,319	6,502	12,986	40,384
営業外収益計	10,884	19,736	26,797	26,797	10,884	19,139	24,261	10,197	16,169	45,127
基金積立金	13,158	0	6,034	13,158	0	6,397	5,625	4,510	6,058	6,020
営業外費用計	7,265	3,595	5,216	7,265	3,595	5,359	19,907	6,683	9,184	7,842
当期純利益	40,231	137,740	82,285	137,740	40,231	86,752	94,637	148,630	98,376	36,177
所得率	5.75%	20.91%	13.22%	20.91%	5.75%	13.14%	11.91%	21.59%	18.28%	10.63%

表一 7 1頭1日当たり増加額と肥育差益(黒毛和種)

農家番号	4等級以上	枝肉重量(kg)	枝肉単価(円)	出荷日齢(日)	素牛価格(円)	飼料費(円)	販売価格(円)	1頭当増加額(円)	1頭当肥育差益(円)	1日1頭当増加額(円)	1日1頭当肥育差益(円)
1	84.3	545.0	2,334	925.0	614,384	344,065	1,271,743	657,359	313,294	1,011	482
2	83.8	554.0	2,439	901.0	640,502	310,074	1,350,642	710,140	400,066	1,155	651
3	85.7	566.0	1,947	948.0	592,481	404,746	1,101,537	509,056	104,310	765	157
4	82.9	477.0	2,037	951.5	594,891		976,687	381,796		578	
5	64.7	392.0	1,880	972.8	470,353		737,477	267,124		391	
6	25.0	414.0	1,536	951.5	498,625		639,445	140,820		217	
7	36.4	407.0	1,691	939.4	451,727		683,266	231,539		364	
8	61.5	478.0	1,834	930.2	600,615		871,806	271,191		420	
9	68.8	471.0	1,946	927.2	509,616		922,453	412,837		652	
10	94.3	493.0	2,116	972.8	567,971		1,048,984	481,013		700	
11	70.3	522.6	1,913	845.1	614,648		1,080,991	466,343		827	
平均	77.6	512.2	2,081	922.3	588,827		1,087,183	498,357		785	
1~3平均	84.5	552.5	2,258	925.5	614,671	352,034	1,245,636	630,965	278,931	980	436
19年度	79.4	511.0		914.5	586,896		1,194,890	607,994		951	
1~3平均	80.2	541.0	2,465	928.0	600,763	283,744	1,335,262	734,499	453,286	1,138	703
18年度	77.2	514.0	2,471	935.6	517,825	271,701	1,271,442	753,617	481,917	1,156	740
17年度	79.7	509.0	2,542	947.0	492,284	270,285	1,297,045	804,761	534,476	1,218	811
16年度		502.0	2,419	939.8	462,265	270,102	1,217,444	755,179	485,076	1,139	731
15年度		492.0	2,102	924.8	434,541	259,989	1,035,543	601,001	341,043	948	538
14年度		479.0	1,980	948.8	459,613	234,043	951,287	491,675	257,632	757	394
13年度		484.0	1,718	918.6	418,052	219,010	832,699	414,647	195,637	659	313